

十九の春

本調子

合合乙				老				四				○王四				上				四				合				四				合				四			

あなた				に				ほれた				のは			
合王中				合王四				合工				合五工			

ちょう				ど				じゅうく				の				はるで				した			
合四				合四				合王中				工合				中中上				四上四			

○王四				上				四				合				五				合				五				七				五				工				合			

中王四		乙四合		○四合		乙老四		合		中		合		中	
いう		な		らば						もと		の			

上中工				じゅうく			
合				に			
工							
中中上				してお			
四王四				くれ			
○王四							
上							
四				○			

一、私があなたに惚れたのは
ちょうど十九の春でした
いまさら離縁と言うならば
もとの十九にしておくれ

二、もとの十九にするならば
庭の枯木を見てごらん
枯木に花が咲いたなら
十九にするのもやすけれど

三、
見捨て心があるならば
早くお知らせくださいね
年も若くあるうちは
思い残すな明日の花

四、一銭二銭の葉書さえ
千里万里の旅をする
同じゴザに住みながら
会えぬ我が身の切なさよ

五、主さん主さんと呼んだとて
主さんにや立派な方がある
いくら主さんと呼んだとて
一生忘れぬ片思い

六、奥山ずまいのウグイスは
梅の小枝で昼寝して
春が来るよな夢を見て
ホケキヨホケキヨと鳴いていた